

新型コロナウイルスの感染を予防する消毒方法について

新型コロナウイルスは「接触」か「飛沫」により感染します。そのため、感染予防のためには以下が重要なポイントとなります。

- ウイルスを含む飛沫が目・鼻・口の粘膜と接触するのを防ぐ
- ウイルスが付着した手が、目・鼻・口の粘膜と接触するのを防ぐ

手指の消毒には消毒用アルコールを用いますが、身の周りの物の表面の消毒には、多くのご家庭にもある塩素系漂白剤が有効です。よく触る場所を、希釈した塩素系漂白剤でふき取って消毒しましょう。消毒用アルコールは現在入手困難ですが、塩素系漂白剤は比較的安価で入手可能です。

ウイルスの除菌に使用できる消毒剤

- 手指：消毒用アルコール（濃度 70%以上）
 - 物の表面：塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム原液濃度約 5~6%）
- ※ 次亜塩素酸ナトリウムを含む商品例としては、ハイター、ブリーチ、ピューラックス等があります。

塩素系漂白剤は用途に応じ、下記の表を参考に希釈して使用してください。なお、古くなった製品は効果が薄いので、ご注意ください。

用途	濃度	希釈方法
ドアノブ・手すり等	0.05%	500ml の水道水に塩素系漂白剤を 5ml（ペットボトルのキャップ1杯分）入れる
吐しゃ物が付着した床等	0.1%	500ml の水道水に塩素系漂白剤を 10ml（ペットボトルのキャップ2杯分）入れる

消毒方法

1 準備

- 日ごろの整理整頓、ゴミやホコリを取る清掃がまず必要です。
- 換気しながら行いましょう。
- 塩素系漂白剤を吸い込んだり、直接手指についたりすることを防ぐため、マスクや手袋を着用しましょう。
- 使用後のペーパータオル等を入れ、廃棄するためのビニール袋を準備しましょう。
- 正しく希釈した消毒液を作ります。作り置きしたものは効果がないため、消毒するたびに作り直しましょう。
- 消毒液を十分に含ませてしぼったペーパータオル等で、消毒する場所を拭き取った後（一方向に拭く）、から拭きします。金属部分は腐食する可能性があるため、水拭きします。
- スプレー式ボトルでの噴霧は、ウイルス拡散の可能性があるので、好ましくありません。

新型コロナウイルスの感染を予防する消毒方法について

2 消毒方法

- 消毒液を十分に含ませてしぼったペーパータオル等で、消毒する場所を拭き取った後（一方向に拭く）、から拭きします。金属部分は腐食する可能性があるため、水拭きします。
- スプレー式ボトルでの噴霧は、ウイルス拡散の可能性があるので、好ましくありません。

3 消毒場所

- 手指がよく触れる場所を消毒します。

※ ウイルスの残存期間は、現時点では不明とされています。

家庭や職場	居間・食事部屋	ドアノブ、窓の取っ手、照明のスイッチ、ソファ、テーブル、椅子、電話機、コンピューターのキーボードとマウス、小児玩具、壁、床等
	台所・トイレ等	水道の蛇口、シャワーヘッド、洗面器、ドアノブ、窓の取っ手、照明スイッチ、浴槽、排水溝、水洗便器と流水レバー、便座とフタ、汚物入れ、壁、床等
	衣類・寝具	通常の洗濯機で問題ないと言われてはいますが、気になる場合には、熱湯消毒（80℃、10分以上）してから洗濯機にかけます。
職場や集合住宅の共用部分	エレベーター・エスカレーター	エレベーターの呼び出しボタン、停止階ボタン、エスカレーターの手すり部分
	建物の出入り口	建物の出入り口にあるドアノブ、ハンドル、セキュリティー対応のオートロックボタンなど不特定の人が触れる部分
	共用のトイレ、給水場所、洗面台等	※家庭や職場の「台所・トイレ等」の欄参照

4 消毒後の注意

- 消毒が完了したら、手をよく洗いましょう。
- 手荒れがあるとウイルスが残りやすいと言われてはいますので、ハンドクリーム等で手荒れを防ぐことも重要です。

※ 上記の消毒方法は、新型コロナウイルスだけではなく、インフルエンザやノロウイルスにも通用します。